安楽寺だより

第51号

紙面内容

2面　春季永代経厳修(椰野明仁師)
3面　東別院で定例法話　若院
4面　日本仏教史(補足)蓮如上人７

編集・発行　安楽寺住職　吉田　和良
名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
電話　〇五二（八四一）二六〇六

第10回 八正道は悟りにいたる道

お釈迦さまは、苦の原因を明らかにし、苦を取り除き、理想の境地に至る実践方法『八正道』を語られています。教えを聞くことも、禅定も戒律を守ることも、すべてここに含まれています。

『八正道』は、古人の足跡であり、お釈迦さまは八正道に沿った生き方・修行をすることで、不死に到る道を実践し、安らぎを悟って、理想の境地へと到達されました。

① **正見**（しょうけん）正しい見解、正しいものの見方。世の中や人間のあり方を偏見や色眼鏡を無くして、ありのままに見ること。

② **正思惟**（しょうしゆい）正しい考え、正しく考えること。自分の都合や得手に考えるのではなく、ありのままに思惟すること。

③ **正語**（しょうご）正しい言語的行為。偽り、悪口、両舌（中傷）綺語（無駄口）をしないこと。誠実な言葉で他に接する。必要な言葉を必要な時に発する。

④ **正業**（しょうごう）正しい身体的行為。不殺生、不偸盗、不邪淫。正業には、いのちの救助、布施も含まれる。

⑤ **正命**（しょうみょう）正しい生活のこと。生き方・生活の仕方のこと。

⑥ **正精進**（しょうしょうじん）正しい努力のこと。何事を行うにしても、基本として必要な努める力のこと。すでにある善は増大させ、無ければ得るようにして、既にある悪は減少させ、無い悪は生じないように努める。

⑦ **正念**（しょうねん）正しい記憶・憶念で正しく留意すること。教えを実践する自分を絶えず働かせること。

⑧ **正定**（しょうじょう）正しい精神統一心を一か所に定めて、動かないようにし、こころを集中させていくこと。

お釈迦さまは、『八正道は、真理に目覚めるための、苦しみをなくすため、悪魔（邪見・渇愛・妄執など）から離れるための最高の道である』と説いておられます。

「八正道は、真理に目覚めるための最高の道」

春季永代経勤める

「亡き人に導かれ参拝」

五月十三日、春季永代経をお勤めしました。どんよりした天気でしたが、大勢のご門徒の皆様にご参拝いただきました。本堂で読経する中、皆様にお焼香をしていただいた後、椰野明仁師（西尾・本澄寺住職）のご法話をお聞きしました。

「今年は親鸞聖人御誕生の一一七三年（承安三年）から、丁度八五〇年、そして聖人が著書「教行信証」をお書きになった一二二四年（元仁元年）から八〇〇年の慶讃法要が四月にご本山で勤まりました。

仏教の伝来は、五三八年（欽明天皇七年）に阿弥陀如来像（善光寺藏）が日本に来朝した年とされています。それから六〇〇年過ぎて「末法の世」になり、ご聖人は、比叡山でご修行の後、法然上人の『ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし』の教えに出遇われました。

聖人は正信偈で『依修多羅顕真実』と申されています。「修多羅」とは、「スートラ」の音写でお経のこと、織機の縦糸(軸)をあらわしています。横糸は、一人一人の人生での生活のあり方をあらわし、縦横が合わされて織物になります。「顕真実」とは、救わずにはおれないとの阿弥陀さまのご本願の教えです。

今日皆様が永代経にお参り下さったのは、亡き方々のお導きがあったればこそだと思います。私たちは、いのちをいただいたわが身を当たり前と思って生活していますが、朝、目が覚めたのは当たり前でなく、「ただごとではなかった」と気づかせてくれることが阿弥陀さまの「他力」のはたらきです。

お釈迦さまは、八〇年のご生涯のお悟りを一言でいえば『いのちはひとつ』です。両親より十代さかのぼれば一〇〇〇人、二十代ですと百万人が親類縁者になります。いのちはつながっているのです。ウクライナでの戦争は親戚同士でやっているのです。

「すべてのいのちはひとつのいのちに収まる」

『すべてのいのちは、ひとつのいのちに収まる』というお釈迦さまのお悟りを二千年かけて、人間の科学が証明しました。しかし、私たち人間は、自分の都合で、良いいのち悪いいのちと裁いている。それに気付いた親鸞聖人は、「私は極重悪人」とおっしゃった。不平・不満や愚痴の絶えぬ私が『生かされて生きていた』と気付いた感動を、ご聖人は『帰命無量寿如来』とあらわされたのです」

ご参拝の皆様は、椰野師の熱のこもったご法話に聞き入ってみえました。

東別院で定例法話

若院　吉田昌史

今年四月十五日に、名古屋東別院に於いて定例法話を勤めさせていただきました。

「凡夫として生きる道しかない」

「お釈迦さまは、『人のいのちは一呼吸の間である』とお説きになりました。その一呼吸一呼吸の連続が、この世での人生になる訳です。ただ「大切に生きないと」と思う反面、「明日でいいか」と今を疎かにしてしまう。たとえ今を疎かにしていなくても、衰えを感じ「こんなはずではない」とついつい思ってしまいます。思い通りにいかない自分にとって何が救いなのか。

親鸞聖人は『凡夫として生きる道しかない』と仰せられました。人は生老病死の四苦からは誰一人逃れることはできません。それにもがき苦しみ抗う生き方ではなく、それを受け入れありのままの自分の姿としていただいていくことが、凡夫として生きるというということではないでしょうか。そのことを気付かせていただけるのは、仏法(ぶっぽう)を聴聞(ちょうもん)し続けることです。今の自分が本当に正しい生き方をしているのかを問い正すことが聞くということであると私は思います。

そして今年は『親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年慶讃法要』の期間中の定例法話でしたので、御門首の表白(ひょうびゃく)のお言葉をいただきお話しさせてもらいました。

「私たちは生きるために立場を建てざるを得ない存在であります。」その立場は時には争いや分断の種になってしまう。ウクライナとロシアの戦争もまだ先が見えない状況であります。同じように私たちも立場を建てて物事を考えていないでしょうか。私が今回お話しした後にいただいた問いの一つでございます。」

本山慶讃法要参拝

四月十九日、本山で勤められた親鸞聖人慶讃法要に名古屋教区二十二組団体参拝いたしました。朝から穏やかな天気で全国からお集まりの皆様と共に、正信偈のお勤めをいたしました。昼食の後、京都国立博物館で聖人のお書きになられた「教行信証」の御真筆を拝観いたしました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

仏教豆知識

第五十一回

日本仏教史 補足 蓮如上人7

⑫ 山科本願寺の建立

蓮如上人は、文明十年（一四七八年）に河内の国（現在の大阪府）から、宇治郡山科郷（現在の京都府）に居を移されました。この地で本願寺伽藍を建立することにされたのです。近在近郷や大和の国（現在の奈良県）吉野などから材木が集められ、文明十二年（一四八〇年）には御影堂建立が始められました。

そしてこの年十一月には、大津顕証寺に預けられていた親鸞聖人の御影像を移して、報恩講が勤められました。

上人は、「つらつら当寺濫觴の由来を案ずるに、予身上において本懐・満足何事かこれにしかんや。随って諸国門葉のともがらもおなじく法喜禅悦の思いを含まざらんや」（拾塵記）と感激の意を述べておられます。

その後山科本願寺は、吉崎御坊と同様に、たちまちにして、寺内町を形成しました。

しかし群参する門徒のなかには、「仁義ばかりの仏法しりがおの風情にて、名聞のここころをはなれず、ひとまねに報恩謝徳にここころざしをいたす」（御文・年月不詳）者が少なくないと嘆いておられます。

そこで文明十五年（一四八三年）の御文には、「・・・かくのごときのやからにおいては、あいかまえて、この一七ヶ日報恩講のうちにありて、はやくそのあやまりをひるがえして正義（しょうぎ）にもとづくべきものなり・・・」四帖目六通（御正忌）

上人は、この後も繰り返し御文を出して、真実信心のこころを伝えておられます。

山科本願寺跡　（本願寺派山科別院）

今年の春は四年ぶりに規制のない毎日になり、旅行に出かける方が増えてきました。日本各地の観光地や遊園地・公園などはコロナ禍前に戻りつつあるように感じます。▼国内旅行で一番人気があるのは沖縄。豊かな自然や南国情緒があり、海のレジャーなど魅力的な島々が幾つもあります。しかし、宮古島・石垣島・与那国島の先島諸島には、最近自衛隊の駐屯地が設置されました。▼「台湾有事」が現実味を帯びてきたように報道され、次々とミサイル配備が進められています。▼沖縄は、太平洋戦争で二十万人もの犠牲者と生活環境が破壊され、その後の朝鮮戦争・ベトナム戦争時には重要基地として、苦難を強いられてきました。▼「防衛増税」「敵基地攻撃能力」の日本政府の国策で、多大な負担を背負わされるのは沖縄の人びとです。「沖縄は再び本土の捨て石にされる」と思う沖縄の人びとの心情を真剣に理解すべき時が来ていると思います。▼戦争は、人間の起こす最大の罪悪です。お釈迦さまの『国豊民安、兵戈無用』の教えを一人ひとりの信条として受け止めるべきです。